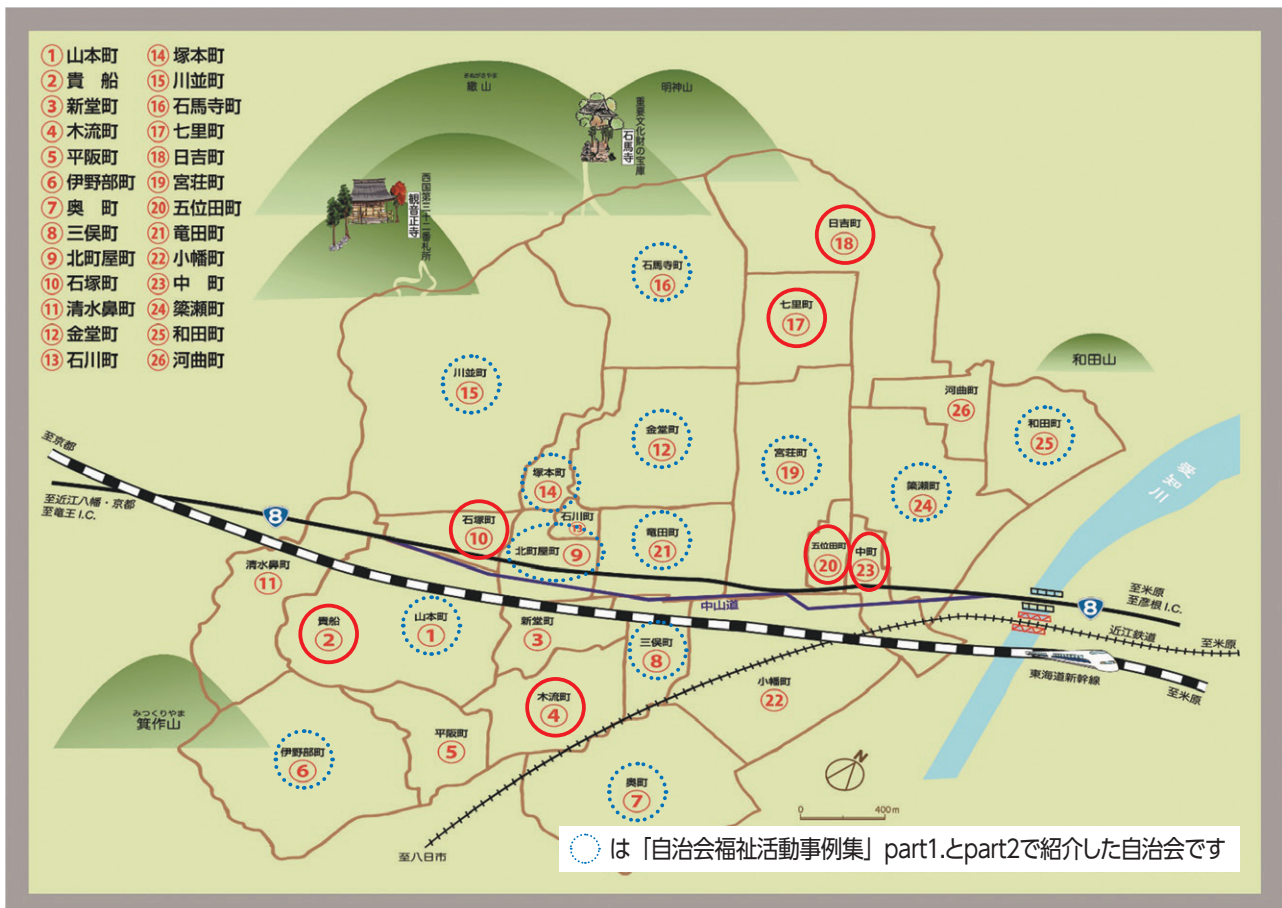




# 自治会福祉活動 事例集 part. 3

# <目次>

ご挨拶 .....	1頁
山本町貴船（東地区） .....	2頁
木流町（東地区） .....	4頁
石塚町（東地区） .....	6頁
七里町（南地区） .....	8頁
日吉町（南地区） .....	10頁
五位田町（北地区） .....	12頁
中町（北地区） .....	14頁
五個荘地区住民福祉会議 委員名簿（令和5年度） .....	16頁



# ご挨拶

五個荘地区住民福祉会議では、令和3（2021）年度に地区社会福祉協議会、まちづくり協議会、民生委員児童委員協議会などの五個荘地区の福祉関係団体、教育機関、商工会、子育て支援活動やまちづくり活動に参加するみなさまとともに「第3次五個荘地区住民福祉活動推進計画」を策定しました。

この計画では、第1次、第2次計画のスローガン「だれもが人財 みんなで支え合うまち 五個荘」を継承し、「人財を育もう」、「場を創ろう」、「しくみを創ろう」の3つの目標を掲げ、それぞれ5つの指針を設けました。

この計画を推進する五個荘地区住民福祉会議では、計画推進年度二年目となる令和5（2023）年度も、昨年度に引き続きそれぞれの目標ごとに推進チームを設けて、活動を進めて参りました。

令和5（2023）年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行しました。

このことで、五個荘地区の各自治会では、新たに福祉委員会が設置されたり、集いの場を設けたり、ふれあいサロンの開催回数を増やすなど、昨年度に比べて自治会福祉活動がより積極的に展開されるようになりました。

今回、「しくみを創ろう」推進チームでは、「自治会福祉委員会の活動を推進しよう」という指針のもと、昨年度に引き続き五個荘地区内の7自治会にご協力をいただき、自治会福祉活動にかかる意見交換を行い、その内容を踏まえて「自治会福祉活動事例集（Part. 3）」を作成しました。

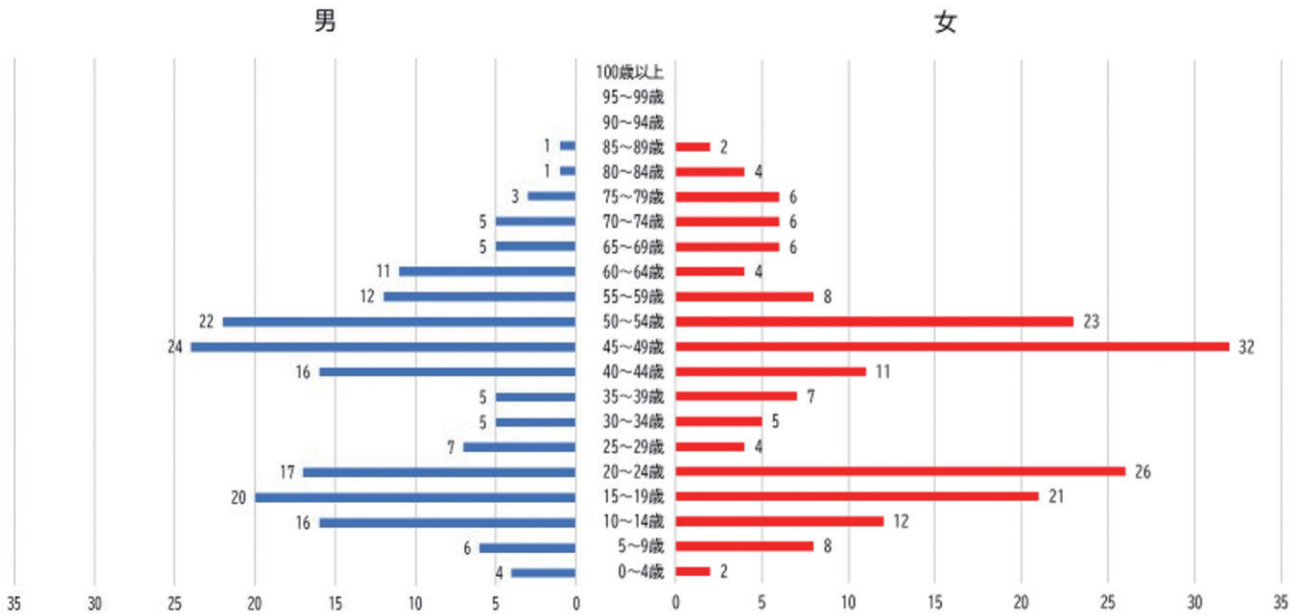
ご多用のところ、訪問に応じて下さった、山本町貴船、木流町、石塚町、七里町、日吉町、五位田町、中町の自治会長をはじめ、民生委員・児童委員、福祉委員、各関係者の皆様にお礼申し上げます。

身近な自治会における福祉活動を点から線に、線から面に紡いでいく網の目の大切さを各関係機関、団体が共有していくため、この事例集を活用していただければ幸いに存じます。

令和6（2024）年3月

五個荘地区住民福祉会議

代表 深尾 浄信



山本町貴船の人口ピラミッド

## 1. 自治会福祉活動の推進体制

自治会福祉活動は、自治会長、福祉委員が主として担っている。自治会長は選挙で選ぶのではなく、組の順番（持ち回り）で毎年交替する。

福祉委員は2名体制で2年任期である。2つの組からそれぞれ1名ずつ選んでもらう。選び方は組に任せている。（今年は11組と12組からそれぞれ1名ずつ福祉委員に就任している。）

ポイント

2つの組から1  
人ずつ福祉委員  
を選出

## 2. 自治会福祉活動の状況

### 1) 独居高齢者等見守り訪問

75歳以上の独居高齢者3名を対象に実施している。福祉委員2名が、1年ずつ交替で担当を決めて訪問している。（例えば、1年目はA福祉委員、2年目はB福祉委員）

### 2) 敬老行事

コロナ禍前は、敬老会として自治会館を会場に、例えば漫才のDVDを見るなどしてひと時を過ごし、お昼にはお弁当を一緒に食べていた。

しかし、自治会館が手狭であることに加え、新型コロナウイルス感染症が流行したため、集いの方式を改め、70歳以上の人（27名）を対象に、記念品を配布するようにした。

### 3) 夕涼み会からBBQへ

毎年7月第4週目の土曜日に、自治会館を本部に、両隣の空き地を会場として「夕涼み会」を開催していた。\*

しかし、台風とコロナ禍でしばらく開催できなかった。令和5年度にようやく新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、自治会では住民が集う場づく

※「人は財 まちの財」（令和3年発行）  
4～5頁を参照。

りを検討した。

その結果、今年度は10月15日（日）にBBQ大会を試行的に開催することとした。会場は近江八幡市国民休暇村で、自治会が借り上げたバスで行くか現地集合である。費用はすべて自治会が負担するので、参加費は無料である。当日は、天候にも恵まれ、BBQ、輪投げなどの遊び、ビンゴゲーム等で多いに盛りあがった。BBQ大会には約90名が参加し、手ごたえを感じている。

新たな集いの場  
BBQ大会

### 3. 防災・減災の取組み

#### 1) 防災マップの作成と全戸配布

山本町貴船は、箕作山の麓に住宅地が展開している。防災ハザードマップでは、土砂災害警戒区域に指定されているエリアも多く、大雨で谷川が溢れたときには、避難も容易ではない。昼間は仕事に出ている住民が多く、いざという時の対応が心配である。

令和3年8月の大雨で谷川が溢れたときも昼間であった。

そのため、令和4年度に自治会内での防災マップを作成して全戸配布し、掲示板にも掲示した。

自治会での防災  
マップづくり

#### 2) 新たな避難訓練

いざという時の避難場所について、実際に避難可能な場所の周知をしていくことも必要である。

自治会では、令和5年12月に地元の地域密着型特別養護老人ホームきいと（以下、きいと）の協力のもと、一旦きいとに避難し、安否確認を行う避難訓練を実施した。避難の際には、隣接する山本町の避難訓練で、避難完了の合図としている黄色い旗の掲示をヒントに、全戸配布した「SOS安否確認カード」を玄関等に掲げた。

特別養護老人  
ホームとの連携



### 4. 自治会加入率100%の強みを活かして

山本町貴船は平成8年に自治会が誕生して以降27年が経過する。成人した子どもが他の地で暮らしている家も少なくない。空家も若干ではあるが出てきている。

現時点での高齢化率は10%強であるが、今後、自治会全体の高齢化も容易に予想される。

一方、自治会発足後、自治会加入率は100%を誇り、山本町貴船の強みである。災害リスクへの対応、今後の高齢化に伴う介護予防の取組みなどに自治会全体として取り組む基盤となる。コロナ禍を経てできることに取組んでいくのが山本町貴船である。

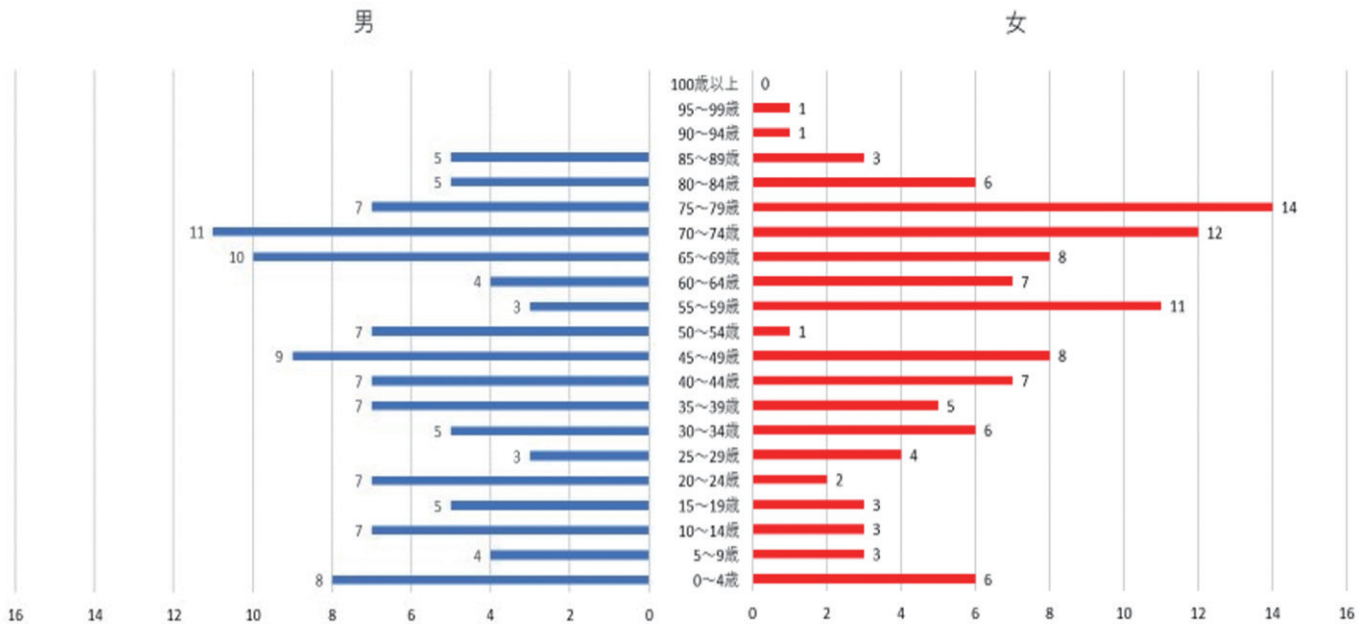


BBQの様子



ビンゴゲームの様子

◆人口：225人（男性114人・女性111人）  
 ◆世帯数：95世帯（外国籍世帯含む）  
 ◆高齢化率：36.9% ◆年少人口比率：13.8%  
 （令和5（2023）年6月1日 東近江市市民課）



木流町の人口ピラミッド

## 1. 自治会福祉活動の推進体制

自治会福祉活動は、自治会長、副自治会長（2名）、自治会長、副自治会長の配偶者、評議員（6名）、民生委員・児童委員、福祉推進委員（7名）

全7組の組ごとに1名の福祉推進委員がいる。（組長兼務の組もある。）

毎年度当初の5月に全員集まって会議を開催し、ふれあいサロンや敬老会の年間事業計画と担当者を決定する。

## 2. 自治会福祉活動の状況

### 1) 独居高齢者等見守り訪問

75歳以上の独居高齢者10名を対象に実施している。民生委員・児童委員が地区社協から見守りの品を預かり、各組の福祉推進委員が訪問して届けている。地区社協の準備した見守りの品に加えて普段のお付き合いの中で、ちょっとした心遣いの品を一緒に携えて訪問する委員もいる。

### 2) ふれあいサロン

自治会長、民生委員・児童委員、福祉推進委員で運営している。

参加対象者は満75歳以上の人で、令和4年度はコロナ禍もあったが11月、12月に開催。令和5年度は6月、8月、11月、12月、1月に開催した。

6月は健康体操、クイズ、ビンゴゲームを行った。健康体操はスタッフが「YouTube」の動画で学習して実施した。クイズも「YouTube」の動画で情報収集をして問題を作

ポイント

ふれあいサロンの復活

成した。8月は「ちょっときてえな講座」から笑いヨガの講師を招き、ビンゴゲームも実施した。

参加者は10名には届かない日が多いが、楽しみにして下さっている。

### 3) 敬老会

令和5年度は敬老会も再開。以前は70歳以上を対象としていたが、今年度は75歳以上43名を対象とした。集会所でマジックショーとビンゴゲームを楽しんでいただき、参加者で会食をした。参加者は16名であったが、記念品は全員に配布した。

### 4) サマーフェスタとペタンク大会

令和5年度から夏の集いの行事である「サマーフェスタ」を再開。転出した子どもや孫も帰省し、7月22日には200人を超える老若男女が集った。10月8日には秋の集い「ペタンク大会」を開催。(令和4年度は芋掘り)40年続く「木流町民運動会」の代替行事でペタンク中心であるが、「仲良しよーいドン」は実施し、住民同士の交流がさらに広がった。\*

住民の集いの場  
サマーフェスタ  
の再開とペタン  
ク大会

※「仲良しよーいドン」は孫を紹介してかけっこをするプログラム。「人は財 まちの財」(令和3年発行)8~9頁を参照。

## 3. 防災・減災の取組み

大同川が町内を流れていて、豪雨による越水のリスクが高い。それもあって自主防災委員を各組1名ずつ置いている。2組は大きい組なので2名の委員を置き、合計8名の委員が活動をしている。毎年度、自治会総会の後に引き続き防災委員会の総会を開き、1年間の活動計画を立てる。「給食・給水班」は防災備品の点検を実施。「消火・救出救護班」が消火栓点検と土嚢訓練を実施している。また、8月26日(土)に開催された五個荘地区総合防災訓練に合わせて避難参集訓練を実施した。

防災委員会の活  
動

## 4. 伝統的行事と多文化共生

木流町では、自治会行事として虫送りを続け、また、左義長で焼くしめ縄を子ども会が集めて、それをやなぎ公園で焼いて一緒に餅を食べるという習わしも続けている。

こうした伝統的な行事とともに、外国籍住民との交流にも心を配る。生活習慣の違いもあって自治会のルール等を伝えることに難しいところはあるが、BBQを一緒にしたことをきっかけに繋がりができ、自治会役員とのコミュニケーションが深まっていった。その後、サマーフェスタやペタンク大会にも参加するなど、住民との交流も生まれている。

伝統的な行事を大切にしながらも、多文化共生もすすめるのが木流町である。

BBQからコミュ  
ニケーションが  
すすむ



敬老会の様子

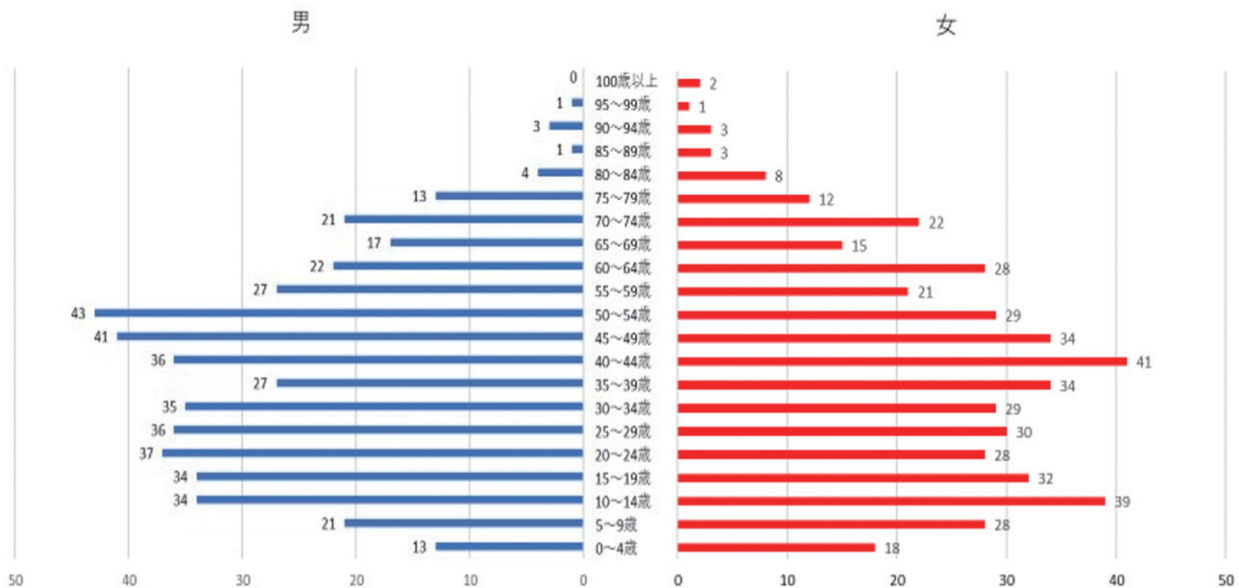


ふれあいサロンの様子



木流町サマーフェスタの様子

◆人口：923人（男性466人・女性457人）  
 ◆世帯数：402世帯（外国籍世帯含む）  
 ◆高齢化率：13.4% ◆年少人口比率：16.6%  
 （令和5（2023）年6月1日 東近江市市民課）



石塚町の人口ピラミッド

## 1. 自治会福祉活動の推進体制

自治会福祉活動は、自治会長、副自治会長、民生委員・児童委員、評議員（8名）、福祉委員（4名）が担い手となっている。

福祉委員は立候補制で、任期は定めていない。

ふれあいサロン等の行事を実施する際に集まって、内容の話し合いと情報交換、情報共有を図っている。

ポイント

福祉委員は立候補制で任期なし

## 2. 自治会福祉活動の状況

### 1) 独居高齢者等見守り訪問

75歳以上の独居高齢者2名を対象に実施している。民生委員・児童委員が見守りの品を携えて訪問している。

### 2) ふれあいサロン

令和5年度は5月、7月、12月の年3回、65歳以上の住民を対象として開催する。

主な内容は演芸や江州音戸、健康体操などで、演芸はやはり喜ばれる。コロナ禍もあって会食は中止としていて、お土産を持って帰ってもらっている。

運営を担うのは、評議員全員（8名）と福祉委員全員（4名）である。

65歳以上を対象としたふれあいサロンの開催

### 3) 敬老行事

令和5年度は9月17日に敬老会の代替として記念品を手渡しで配布して、お変わりがないかどうか等近況を聞いている。石塚町では65歳以上の住民を敬老行事の対象としている。



### 3. 住民の集いの場と減災・防災の取組み

#### 1) 防災訓練とグラウンドゴルフ

例年であると防災訓練の後にグラウンドゴルフ大会を開催している。人権のまちづくり推進協議会の担当で、グラウンドゴルフ大会を楽しみにしている方も多し。

防災訓練の後にグラウンドゴルフ大会

石塚町の大切な集いの場である。(令和5年度は、防災訓練を中止したことに伴いグラウンドゴルフ大会も中止となった。)

#### 2) 河川清掃、美化活動

近年では、豪雨に見舞われることも少なくなく、災害に備えるためにも河川清掃は欠かせない。そのため、石塚町では年4回の美化・清掃活動を行っている。自分たちの暮らす地域を保全し、災害に備えるために力を合わせて取り組む活動である。

### 4. 未来につなぐ

石塚町は宅地開発で世帯数と人口が増え、現役世代の世帯も多い。高齢化率は13.4%と五個荘地区内で2番目に低い若い町である。それ故に課題もある。それは自治会運営の担い手の確保である。コロナ禍で自治会での「集いの場」が中断された影響も少なからずある。

子ども会の活動を自治会活動として支援

一方、小学生の人数が比較的多く、自治会では親子レクリエーションや歓送迎会、地藏盆などの子ども会の活動を自治会活動として支援している。今夏の地藏盆は子ども達が連れ立って会議所に来てくれた。

石塚町が子ども達の「ふるさと」となる未来に向けて、今後の自治会活動の展開を模索している。

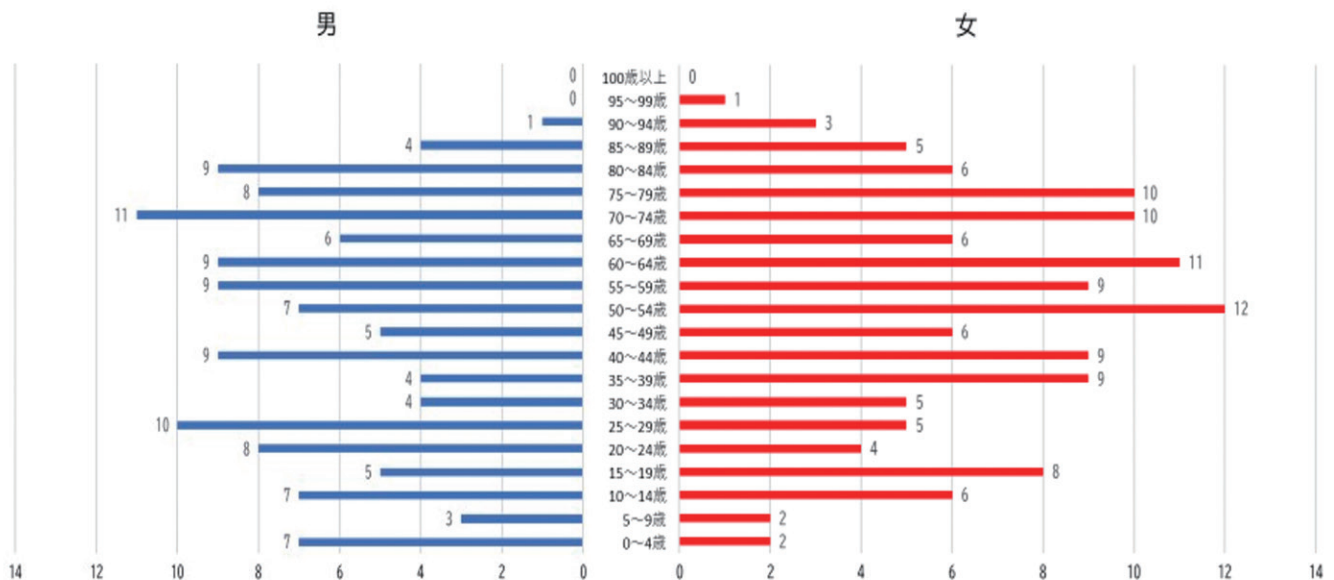


ふれあいサロンの様子 (演芸)



ふれあいサロンの様子 (健康体操)

◆人口：255人（男性129人・女性129人）  
 ◆世帯数：87世帯  
 ◆高齢化率：31.4% ◆年少人口比率：10.6%  
 （令和5（2023）年6月1日 東近江市市民課）



七里町の人口ピラミッド

## 1. 自治会福祉活動の推進体制

自治会の福祉班（評議員）2名が企画し、評議員全員が運営に参加する。福祉班は2年任期であるが、1年ずつ交替するので活動が途切れることなく継続性が保たれている。

ポイント

自治会の「福祉班」が企画

## 2. 自治会福祉活動の状況

### 1) ふれあいサロンの開催

コロナ禍前は習字やミニコンサート、和菓子や花づくりなどの内容で年に2回程度開催していた。コロナ禍2年目の令和3年1月にバリアフリーの自治会館が新築された。「住民が気軽に集える場にしたい」「一人でも多くの人が自治会館に集ってほしい」という強い思いのもと、令和5年度に4年ぶりにふれあいサロンを再開した。

対象は65歳以上の住民を対象として、年6回開催することとした。

サロンのアイデアは福祉班の2名が考える。第1回は4月23日（日）の午前9時から「頭の体操をテーマに【麻雀大会】」を開催。開催にあたり、7組ある組長に参加を募ってもらったが、久々の開催で集まりにくかったのか事前参加申込は5名。しかし、当日は申込人数を大きく超える12名が参加した。麻雀ができない人には「麻雀教室」でルールを伝授した。

2回目は8月5日（土）に映画「最高の人生の見つけ方」（主演：吉永小百合）のDVD鑑賞と茶話会を開催し、19名が参加した。3回目は9月10日（日）に「指先・頭の体操【ゲーム大会と茶話会】」を開催。麻雀教室、トランプ、花札等で15名が参加。4回目は11月12日（日）に近江商人を取り上げた映画DVD鑑賞会と茶話会を開催し、22名が参加した。5回目は12月10日（日）に七里町の農事組合法人「七里町百姓倶楽



七里町自治会館

ふれあいサロンを年6回に

麻雀、トランプ、花札、映画と茶話会

部」生産の新米のもち米を使って「子供たちとふれあう餅つき大会」を開催する。6回目は1月の獅子舞に合わせて開催する予定だ。

老若男女問わず

新しい自治会館の設備を活かし、コロナ禍前よりも開催回数を大幅に増やしたコロナ禍後の「新サロン」。次回の映画鑑賞のリクエストも頂くようになった。

なお、麻雀やゲーム大会の時には「64才以下のお相手（お手伝い）いただける方も参加募集」とし、老若男女問わず参加できるようにしている。

## 2) 敬老会

9月18日（月・祝）に75歳以上の42名の方々に評議員9名全員で記念品を届けた。記念品は今まで和菓子が多かったが、「おいしいけど食べきれない」との声にフリーズドライの味噌汁にした。

評議員全員で記念品を届ける

## 3) 独居高齢者等見守り訪問

独居高齢者世帯7軒に、自治会長が毎月見守りの品を届けている。訪問時に体調を伺って話を聞く。みなさん「いつもご苦労様です」と歓迎し、労ってくださる。



# 3. スポーツフェスティバルと防災訓練

七里町のスポーツフェスティバルも4年ぶりに開催した。パン食い競争等の楽しい催しや放水訓練、土嚢づくりといった防災意識を高めるプログラムを盛り込み、防災かまどベンチを使って温めたレトルトカレーを参加者全員でいただく。コロナ禍前は、自治会館で炊いたご飯に温めたカレーをかけていたが、災害時に電気を使えないことを考え、ご飯もレトルトパックにした。七里町は瓜生川が越水すると浸水する水害リスクが高い。特設消防隊7名と市消防団員6名がいて防災意識が高い。非常時に備え自治会での食糧備蓄をすすめ、ローリングストックしていくことにしている。

※「人は財 まちの財」（令和3年発行）34～35頁を参照。



# 4. コロナ禍後の自治会福祉活動づくり

令和5年度からコロナ禍前の自治会での集いの場を再開した七里町。祭禮と神輿の渡りも復活した。百姓倶楽部の農業用排水路清掃に参加した住民がBBQを楽しむ。夏祭りも再開し、70～80名の住民が集った。

次々と再開する集いの場

七里町の世代間の繋がりに一役買っているのが「七里町ゴルフクラブ」（会員16名）である。七里町の集いの場づくりの下支え役である。

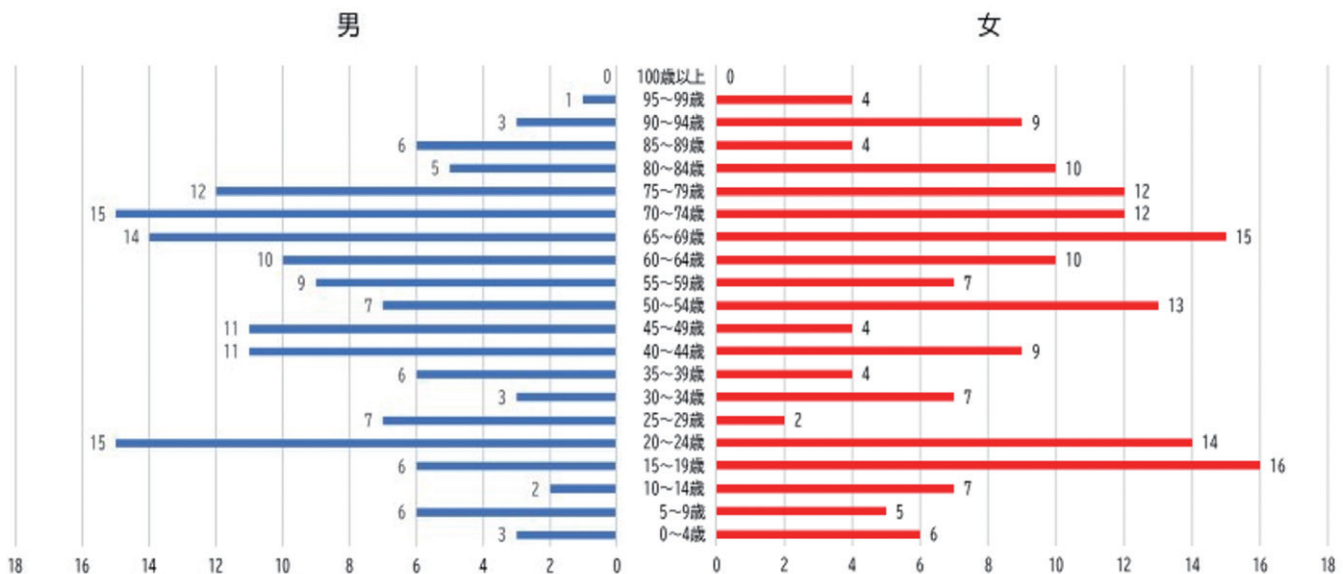
七里町は、新たな自治会館をシンボルとして、コロナ禍後の自治会福祉活動に、自治会役員をはじめ住民ぐるみで創意工夫しながら取り組み続けている。



ふれあいサロンの様子（9月10日）



ふれあいサロンの様子（9月10日）



日吉町の人口ピラミッド

## 1. 自治会福祉活動の推進体制

「日吉町福祉委員会」を令和5年7月15日に立ち上げて自治会福祉活動を推進している。委員数は合計9名で構成は以下のとおり。

【委員長】自治会長 【副委員長】副自治会長

<構成員>民生委員・児童委員、寿会会長、福祉委員（2名）、  
 サロン担当評議員（1名）、すみれ会（正、副会長：2名）

ポイント

福祉委員会を立ち上げる

## 2. 自治会福祉活動の状況

### 1) 福祉委員会の開催

ふれあいサロン開催後に福祉委員会を開催している。福祉委員会では、見守り訪問をしている人の情報共有、情報交換等を行っている。

### 2) ふれあいサロンの開催

77歳以上の方（60名）を対象に、日吉町集会所で6月、9月、12月、2月の年4回開催している。

主な内容は、演者（音楽演奏やマジックショー等）を招いて楽しい時間を過ごしていただき、お弁当を食べる。お弁当は現在外注しているが、汁物とデザートはサロンスタッフによる手作りである。対象者の約半数が参加して賑わっている。ふれあいサロンの欠席者に対しては、福祉委員が訪問し、お変わりがないか様子を伺っている。

9月は敬老会と併催（後述）、12月は子ども会と合同でクリスマス会を開催する。

### 3) 敬老会

9月にふれあいサロンと併催で75歳以上の方71名を対象として開催している。令和5年度の敬老会は9月18日（月・祝）に開催し、34名が参加した。

年4回のふれあいサロン

ふれあいサロンの欠席者には福祉委員が訪問

#### 4) 独居高齢者等見守り訪問

現在、65歳以上のひとり暮らし高齢者、50歳代の障がいのある人11名を対象として地区社協が準備した品を携え、民生委員・児童委員が見守り訪問を行っている。そして、福祉委員がペアとなり、5班で月2～3回の見守り訪問活動を行っている。初回訪問は民生委員・児童委員が「顔つなぎ」のために同行している。

月数回の見守り  
訪問を実施

### 3. 防災・減災の取組み

#### 1) 防災委員の設置

日吉町は瓜生川が越水すると町内が分断されてしまうこともあり、防災、減災のために、8年前に防災委員を立ち上げた。防災委員は延べ40名に及ぶ。構成は以下のとおり。

延べ40名の防  
災委員

##### ①日吉町防災委員（17名）

防災会長、防災副会長、民生委員・児童委員、自治会長、自治副会長、前自治会長、情報班、避難誘導班、消火班、救出・救護班、給食・給水班（※防災会長は評議員から選ぶ。）

##### ②各組組長防災委員（10名：1組～10組組長）

##### ③市・特設消防防災委員（15名）

市消防（5名）、特設消防（10名）※①と兼ねている人もいる

#### 2) 防災訓練の実施—運動会に替わる日吉町全体の集いとふれあいの場に

コロナ禍で運動会が中止になったことをきっかけに、昨年度にアンケートを実施した結果中止することが決定した。そして、運動会に代わる集いとふれあいの場という、新たなコンセプトで10月29日（日）に防災訓練を実施することとした。訓練の流れは以下のとおり。

日吉町の集いと  
ふれあいの場と  
しての防災訓練

- ・午前8時にページング放送を行い、一時避難所に集合。各組組長が安否確認をする。無事な場合「無事です」という札を玄関に立てる。
- ・組長が先導して避難所（草の根広場）に集合。
- ・心肺蘇生、AED、消火栓、土嚢づくり、水消火器による消火訓練、バケツリレー、ストレッチャーによる搬出、かまどベンチを使った非常食体験、給水、救護訓練、ビンゴゲーム

### 4. 福祉も防犯も防災も一緒

日吉町の子ども達は、五個荘小学校まで片道約3.5キロを毎日歩いて通学する。子ども達の通学の安全をスクールガードや「見守り隊」が守り続けている。\* 「福祉も防犯も防災も一緒」。日吉町は、安心して健やかに暮らし続けることのできるまちづくりに今までも、そしてこれからも取組んでいく。

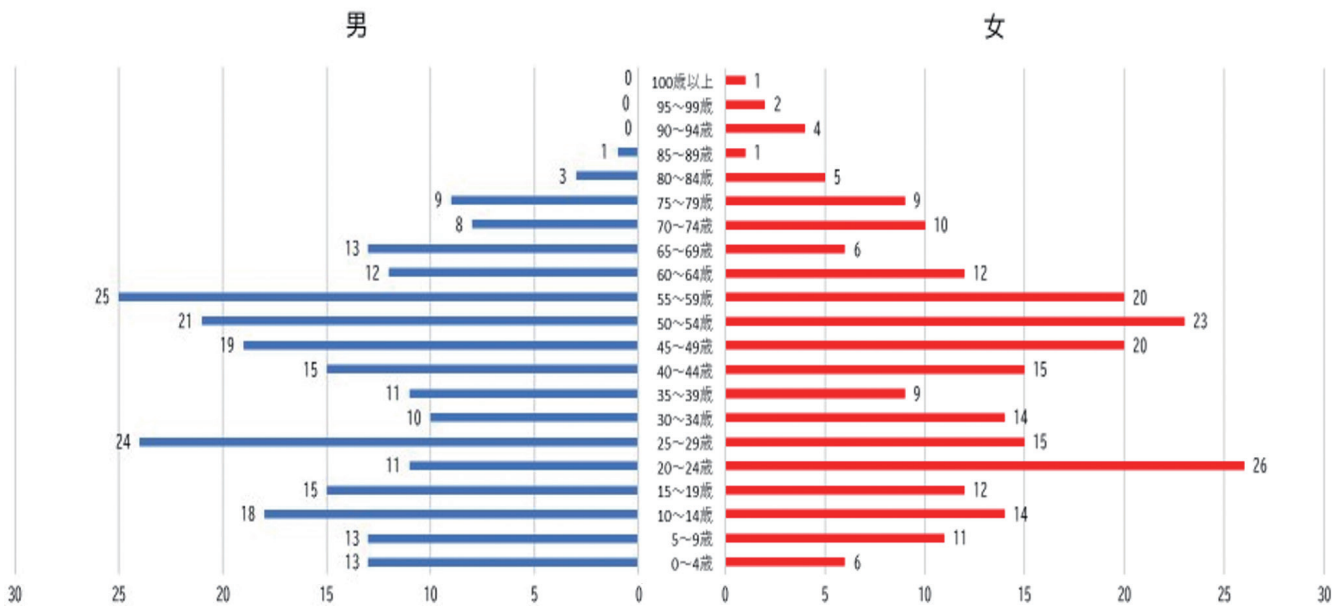
\* 「人は財 まちの財」（令和3年発行）36～37頁を参照。



ふれあいサロンの様子（6月4日）



防災訓練の炊き出しの様子（10月29日）



五位田町の人口ピラミッド

## 1. 自治会福祉活動の推進体制

自治会福祉活動は、自治会長、副自治会長、会計、民生委員・児童委員、評議員（2名）、福祉委員（2名）が話し合いながら企画・運営を進めている。福祉委員は、民生委員・児童委員経験者が就任していて、年度ごとに自治会長が依頼している。

## 2. 自治会福祉活動の状況

### 1) 独居高齢者等見守り訪問

75歳以上の独居高齢者5名を対象に実施している。毎月20日以降の日曜日に評議員が集まるので、その日に自治会長、民生委員・児童委員が対象者を訪問している。

### 2) ふれあいサロン

自治会長、副自治会長、会計、民生委員・児童委員、福祉委員（2名）、評議員（2名）の合計8名が運営している。会場は五位田町公会堂（以下、公会堂）で、65歳以上の住民を対象としている。

令和4年度の前半はコロナ禍のために中止していたが、後半から再開した。令和5年度は年13回の開催計画である。その内容は、運営スタッフが話し合って決めていて、茶話会、夕涼み会、演歌・懐メロ鑑賞、健康体操、グラウンドゴルフ、藤井彦四郎邸見学、しめ縄教室、マジックショー、オカリナ鑑賞とバラエティに富む。毎回15名ほどの参加があり、公会堂は賑わっている。

敬老会はサロンとは別に開催していて、今年度はマジックショーを楽しんでいただいた。

ポイント

年13回のサロン  
開催

### 3) 納涼祭と地蔵盆

令和5年7月29日（土）に4年ぶりとなる納涼祭を開催した。開催するかどうかの話し合いでは反対意見も出たが、子ども会からも大人との交流の機会が欲しいという意見も出され、開催を決定した。

納涼祭は、まちづくり推進委員会（組長、評議員、子ども会、民生委員・児童委員、福祉委員、寿会、スポーツ指導員）の約30名が準備に当たった。この準備段階でメンバーが団結し、繋がりが強くなった。

ステージでは和太鼓の演奏があり、模擬店は2組で1つの模擬店を出した。子ども会も模擬店を出した。この日は、五位田町の約半数の世帯が納涼祭に参加し、久しぶりの町全体の交流が広がり、深まった。

公会堂にお地蔵様（北向き地蔵）を運んで営む、五位田町ならではの子ども達で賑わう地蔵盆も復活している。<sup>\*</sup>

復活した納涼祭

※「人は財 まちの財」（令和3年発行）40～41頁を参照。

### 4) ラジオ体操

夏休みが始まる前の7月初旬から8月末まで、土日を除いて公会堂のスピーカーから生放送のラジオ体操が流れる。当番はいない。公会堂前の広場に集まった大人や子どもたちの夏の一日がラジオ体操で始まる。

公会堂前広場で  
の生ラジオ体操

## 3. 防災・減災の取組み

自主防災組織が毎年消火栓や器具の点検をしている。町をあげての防災訓練はしばらく実施していないが、まずは、放水訓練から着手できないかと考えている。災害時に避難等の支援が必要な方に対してどのような取組ができるのかということも課題としている。

## 4. 五位田町の自治を継続・発展させる仕組み

五位田町は、以前は約35～36世帯の町であったが、27年前に新興住宅地が開発されて人口と世帯数が増え続けるなかであって住民同士の交流がすすみ、アパート世帯を除くと自治会加入率はほぼ100%である。

全世帯が役員を  
担う仕組み

現在11組（共同住宅を除く）となった五位田町の自治会福祉活動の基盤となる自治力の継続・発展させる工夫が、平成27年度に改正された役員の選出方法にある。

組長となった人は翌年評議員を務める。副自治会長と会計は選挙で選出される。副自治会長が翌年自治会長を務める。組長は基本的に当番で回るので、翌年は評議員として自治会の役員として自治活動を経験することになる。いわば全世帯が自治会役員を経験するという仕組みである。

繋がりを作り、繋がり続けるべく日頃の活動が営まれている。

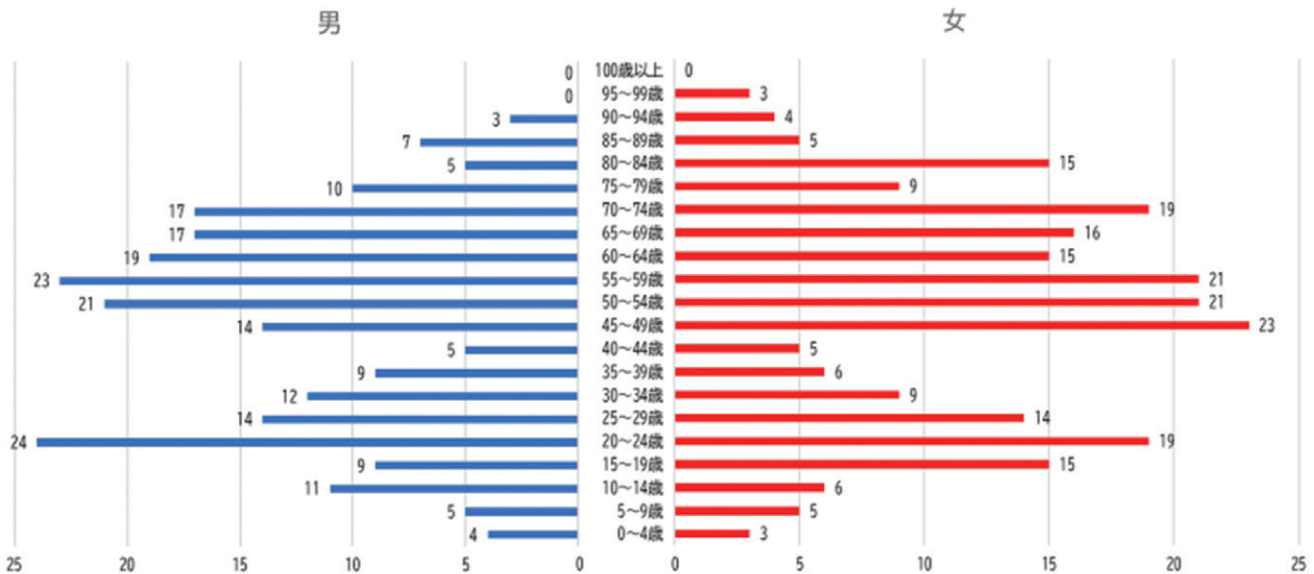


ふれあいサロンの様子



納涼祭の様子

◆人口：462人（男性229人・女性233人）  
 ◆世帯数：177世帯（外国籍世帯含む）  
 ◆高齢化率：28.1% ◆年少人口比率：7.4%  
 （令和5（2023）年6月1日 東近江市市民課）



中町の人口ピラミッド

## 1. 自治会福祉活動の推進体制

自治会福祉活動をはじめ、行事は自治会長、副自治会長、相談役（前自治会長）、民生委員・児童委員、福祉委員、評議員、組長が一体となって中町自治会をあげて取り組む体制をとっている。

このうち、福祉委員、評議員（福祉担当）は2年の任期である。福祉委員は任期を更新して継続して活動している。

ポイント

役員一丸で取り組む体制

## 2. 自治会福祉活動の状況

### 1) 独居高齢者等見守り訪問

75歳以上の独居高齢者12名を対象に実施している。見守り訪問は自治会長と民生委員・児童委員の2名で行っている。中には老人保健施設に入所して一旦自宅に戻る方もいらっしゃるが、在宅時の見守り訪問の対象としている。また、日頃の見守り活動を通して、日頃の暮らしでの気になることや困りごとの相談を受けたり、高齢者の介護について家族からの相談を受けたりしている。「まずは寄り添うところから」をモットーに活動している。

まずは寄り添うところから

### 2) ふれあいサロン

令和5年6月からふれあいサロンを再開した。自治会役員が世話役となって、70歳以上の方を対象として中町公会堂で開催している。

6月のふれあいサロンのプログラムは、滋賀県平和祈念館のスタッフによる講話であった。対象者約20名が参加し、役員を含めると34名が参加した。12月には東近江市社協の「近所でみんなと健康づくり」のプログラムを活用してフレイル予防や認知症予

ふれあいサロンの復活



防の脳トレ、健康体操等を実施する。会食を実施し、用事のある方はお弁当を持ち帰ってもらう。

### 3) 敬老会

令和5年度から敬老会を再開。75歳位以上の方を対象に9月18日に開催し、約20名の参加があった。参加者に懐メロのギター演奏等を楽しんでいただき、会食も催した。敬老の日の記念品は、役員が手分けして訪問してお渡しし、長寿をお祝いしている。

### 4) 集いの場—グラウンドゴルフ大会とラジオ体操

中町では10月に「中町フェスティバル」を開催していたが、コロナ禍で中止にしていた。<sup>\*</sup>

令和5年度は、一時的にコロナ禍明けなので野外の開催を検討し、これに代えてグラウンドゴルフ大会を開催したところ、34名が参加した。(受付、点数記入係等の4人を含む)また、北公園でラジオ体操を3年ぶりに再開した。夏休みが始まって規則正しい生活習慣を身に着けるためにと、約10日間開催する。ラジオ体操も3年間開催していないとどのような形で行うのかが分からない。そこで、経験のある子どもの保護者がリードして体操を行った。中町の子どもはほぼ全員参加した。

※「中町フェスティバル」については「人は財 まちの財」(令和3年発行)47頁を参照。

ラジオ体操には子どもがほぼ全員参加。

## 3. 防災・減災の取組み

中町自治会には特設消防はない。役員会のメンバー全員が自主防災のメンバーとなって活動している。令和4年度には放水訓練も実施している。なお、市の消防団のメンバーは5名いる。

災害時避難行動要支援者名簿は自治会で管理し、中でも重点的に対応が必要な方のリストを作成していて、いざという時に備えている。

## 4. 継続性と柔軟性

中町の子ども数は減ってきていて、子ども会の活動も学期ごとに集まって催しをしているが、それ以外の活動はほぼしていない。そして、地蔵盆もコロナ禍で中止となって以降、催していない。

一方、中町の自治会加入率は100%を誇る。自治会の役員である評議員もおよそ各組から1名選出されており、評議員の半数ずつの交替制によって、自治会活動が途切れずに引き継がれる形になっている。

継続性と同時に、自治会長を中心に、臨機応変に活動するという柔軟性も併せ持っている。自治会加入率100%という強みを活かした、継続性と柔軟性を併せ持つ中町の自治会活動である。



ふれあいサロンの様子 (6月11日)



敬老会の様子 (9月18日)

# 五個荘地区住民福祉会議 委員名簿（令和5年度）

代表 深尾 浄信

※五十音順・敬称略

## <「人財を育もう」チーム>

	氏名	所属
1	池尻 雅	東近江市社会福祉協議会 地域福祉課
2	河村 栄一	五個荘地区まちづくり協議会 運営委員
3	篠原 玲子	五個荘地区まちづくり協議会 運営委員
4	堤 洋三	社会福祉法人 六心会 理事長
5	野々目 良一	～暮らしのお手伝い～ほっとハート五個荘代表
6	林 留奈	地域住民（保健師／東近江市保健センター）
7	溝江 麻衣子	地域住民（東近江市企画課）

## <「場を創ろう」チーム>

	氏名	所属
1	池尻 雅	東近江市社会福祉協議会 地域福祉課
2	石田 富生枝	子育てスタジオPIECE 代表
4	大橋 久子	地域住民（介護予防運動指導員・リズム体操指導員・介護福祉士）
5	木村 光男	五個荘地区社会福祉協議会 理事
6	佐々木 律子	ボランティア
7	関 菊世	正福寺サラナ親子教室 代表
8	青井 由香里	てんびん倶楽部（養護老人ホームきぬがさ 所長）
9	細居 悦子	五個荘地区まちづくり協議会 運営委員
10	吉居 崇司	五個荘地区まちづくり協議会 副会長

## <「しくみを創ろう」チーム>

	氏名	所属
1	池尻 雅	東近江市社会福祉協議会 地域福祉課
2	市田 衛	五個荘地区社会福祉協議会 副会長兼総務部会長
3	大橋 保治	五個荘地区まちづくり協議会 安心・安全部会長
4	川嶋 重剛	五個荘地区社会福祉協議会 事務局長
5	北川 友一	健康倶楽部ごかしょう 会長
6	小杉 勇	五個荘地区まちづくり協議会 会長
7	西 義一	五個荘地区社会福祉協議会 会長 五個荘地区民生委員児童委員協議会 会長
8	西村 貞之	五個荘地区社会福祉協議会 理事

【事務局】 辻 薫・奥村 昭（社会福祉法人六心会 地域支援担当 地域支え合い推進員）

第3次五個荘地区住民福祉活動計画  
【推進期間】令和4（2022）年度～令和8（2026）年度  
だれもが人財 みんなで支えあうまち 五個荘

I <sup>じんざい はぐく</sup>  
人財を育もう

1. 日ごろの声かけ、あいさつ運動をすすめよう
2. みんなが助け、助けられる人になろう
3. 多様性を認め合う学びをすすめよう
4. 「ちょっとお手伝い」の「輪」を広げよう
5. 「六心の訓」の普及・啓発をすすめよう

六心の訓

はい …素直な心 私がします…奉仕の心  
すみません…反省の心 どうぞ …互譲の心  
ありがとう…感謝の心 おかげさまで…謙虚な心

III <sup>つく</sup>  
しくみを創ろう

1. 得意なことを地域に活かせるしくみを創ろう
2. 住民同士の助け合いのしくみを充実させよう
3. 自治会福祉委員会の活動を推進しよう
4. 「互近助（ごきんじょ）」で災害時に助け合うしくみづくりをすすめよう
5. 「いのちのバトン」で緊急時への備えをしよう

II <sup>ば つく</sup>  
場を創ろう

1. 気軽集える居場所づくりをすすめよう
2. 情報の交換・共有の場づくりをすすめよう
3. 赤ちゃんからお年寄りまで交流できる場づくりをすすめよう
4. 子どもや若い世代が地域で活動できる場づくりをすすめよう
5. 誰もが参加できる場づくりをすすめよう



人は財 まちの財  
自治会福祉活動事例集（part. 3）

【発行】令和6（2024）年3月

五個荘地区住民福祉会議

代表 深尾浄信

URL：<http://gokashofukushi.com/>

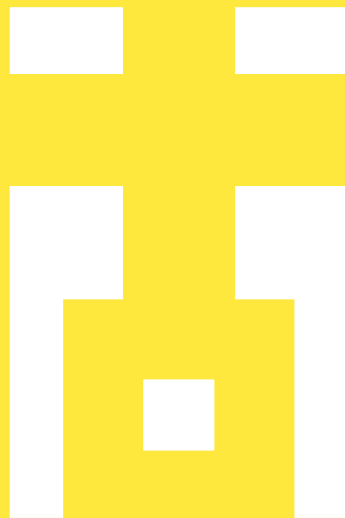
所在地 〒529-1422 滋賀県東近江市五個荘小幡町318番地  
五個荘コミュニティセンター内

事務局 社会福祉法人六心会  
〒529-1441 滋賀県東近江市五個荘川並町268番地  
特別養護老人ホーム清水苑内

TEL：0748-48-5000 FAX：0748-48-6100

題字揮毫 深尾浄量 デザイン 堤洋三 イラスト 溝江麻衣子

この冊子は、「東近江市生活支援体制整備事業第2層協議体運営業務」の委託を受け作成しました。



<http://gokashofukushi.com/>



令和6 (2024) 年3月